

清田区福祉のまち推進センター活動交換会

テーマ：孤立のない地域へ！ 町内会における地域内連携と地域に根付いた企業との結びつき

とき：平成27年12月7日(月)
ところ：清田区民センター 大ホール
参加者：280名



第1部 実践報告

【実践報告①】

『隣人を知り合おう』をスローガンに
～会館建設で培った町内会の結束力を次世代に！～

北野地区 朝日ヶ丘町内会福祉推進委員会 委員長 林 進一 氏



【概要】

- 町内会の設立は昭和43年。報告時点では274世帯、加入率99%、高齢化率29.5%。
- 町内会結成から、住民が集う場所がないという課題を抱え、市バスの払い下げやプレハブ利用を経て、現会館の完成は昭和63年。以後、平成10年に建設経費の借入金を返済した。この間、町内会費は月額1,350円の負担をお願いするなど、会員の理解と結束力を高めてきたところである。
- 一方、昭和54年には約40名の方々により老人クラブ「朝日ヶ丘寿会」が設立され、町内会と足並みをそろえて地域づくりに取り組んでくれた。会館建設が一段落した平成10年に、福祉推進委員12名、福祉協力員8名からなる福祉推進委員会が発足し、ひとり暮らし高齢者24名の支援を始めた。民生委員・児童委員及び寿会の参画も得て、日常的な見守り活動、介護予防事業、おひとり暮らし高齢者との懇親会の開催、町内会事業である「敬老の日」記念品配布などを実践してきた。
- 平成22年には「遊！朝日ヶ丘子ども会」が発足し、七夕まつり、ハロウィンの集い、クリスマス会、子どもの町内会バトロールといった活動に取り組んでいる。今では、町内会のもとに福祉推進委員会や老人クラブ、子ども会が連携する形で一体化を図っている。子どもからお年寄りまで、人と人が“つながる”仕組みを意識して、会員が孤立しない、町内会を目指している。



町内活動で多くの人と触れ合えば健康になるし、働く時期と同じくらい続く老後も豊かになれる。
話しやすい雰囲気をつければ、若者も地域活動に参加するし、良いアイデアも出やすくなる。

